

伊豆半島東方沖の海底地形調査*

Bathymetric Survey off Eastern Izu Peninsula

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

平成6年2月～3月にかけて門脇埼南東方で発生した群発地震の震源域について、水路部は平成6年5月に測量船による海底地形調査を実施したので、その結果について報告する。

調査は平成6年5月27日に測量船「海洋(605総トン)」のナローマルチビーム音響測深機(シービーム2000)により実施した。測深線は北東-南西方向に約0.5マイル間隔で、震源域が100%カバーするように設定した。

Fig.1に今回の調査で得られたデータにより作成した海底地形図を示す。図中の破線による丸印は震源域である。また、Fig.2には昭和63年6月に測量船「天洋(430総トン)」のナローマルチビーム音響測深機(ハイドロチャート)のデータを基に作成した海底地形図を示す。

両図を比較すると、伊豆半島東岸から相模トラフにかけての急峻な棚斜面や門脇埼東北東の高まり及び同埼東南東の谷地形等、同じ形状を呈しており、群発地震による地形の変化は見られなかった。

なお、両図はデータソース(シービーム2000はハイドロチャートより斜方向のデータ密度が10倍以上細かく取得できる)、データ処理(シービームは実寸100mメッシュデータファイルより、ハイドロチャートは250mメッシュより作成)の過程が異なるため、完全には一致しない。

* Received 12 Dec., 1994

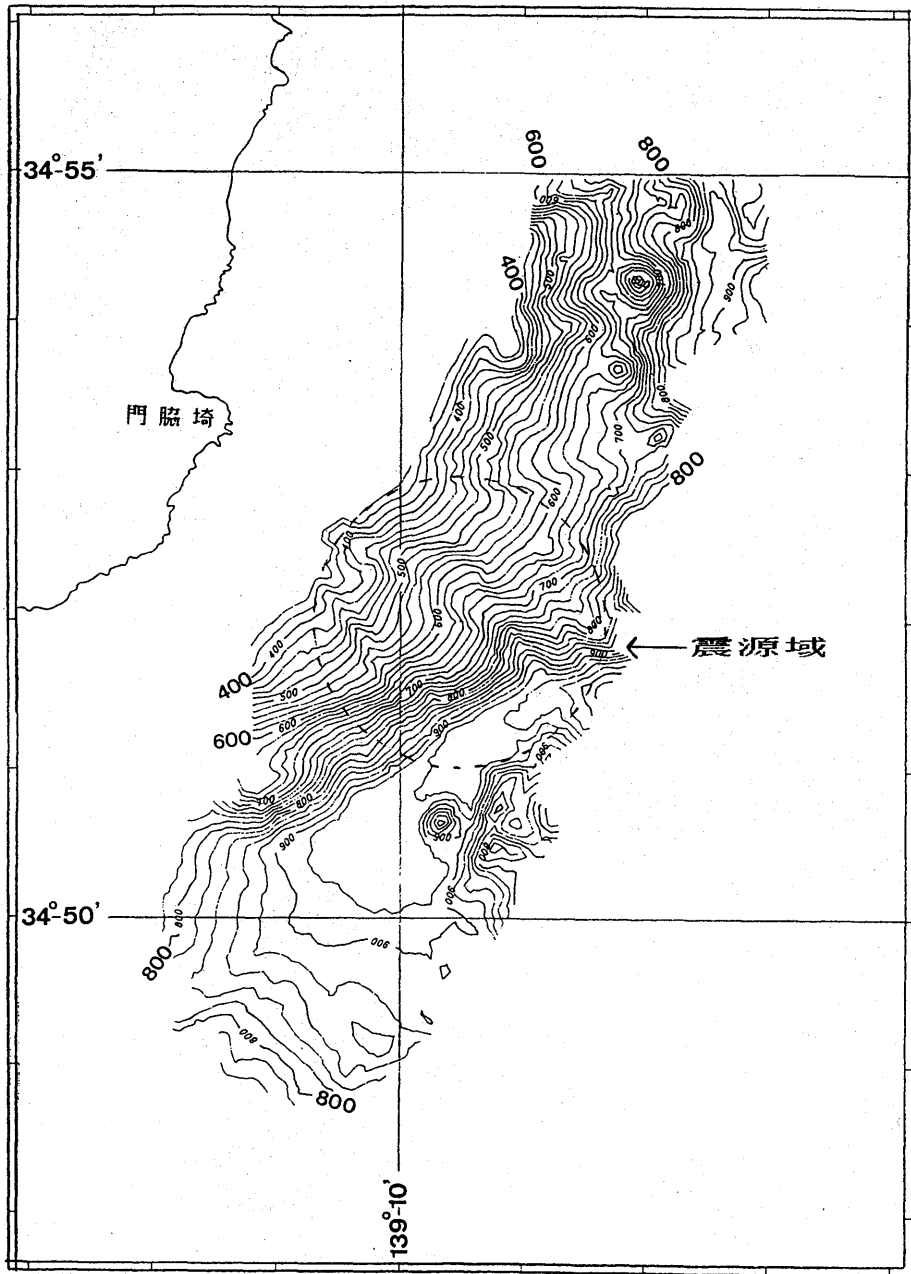


Fig. 1 Topography off eastern Izu Peninsula surveyed in 1994.
 Contour interval of 20m.
 Broken circle line is the area of hypocentral distribution
 (February-March, 1994).

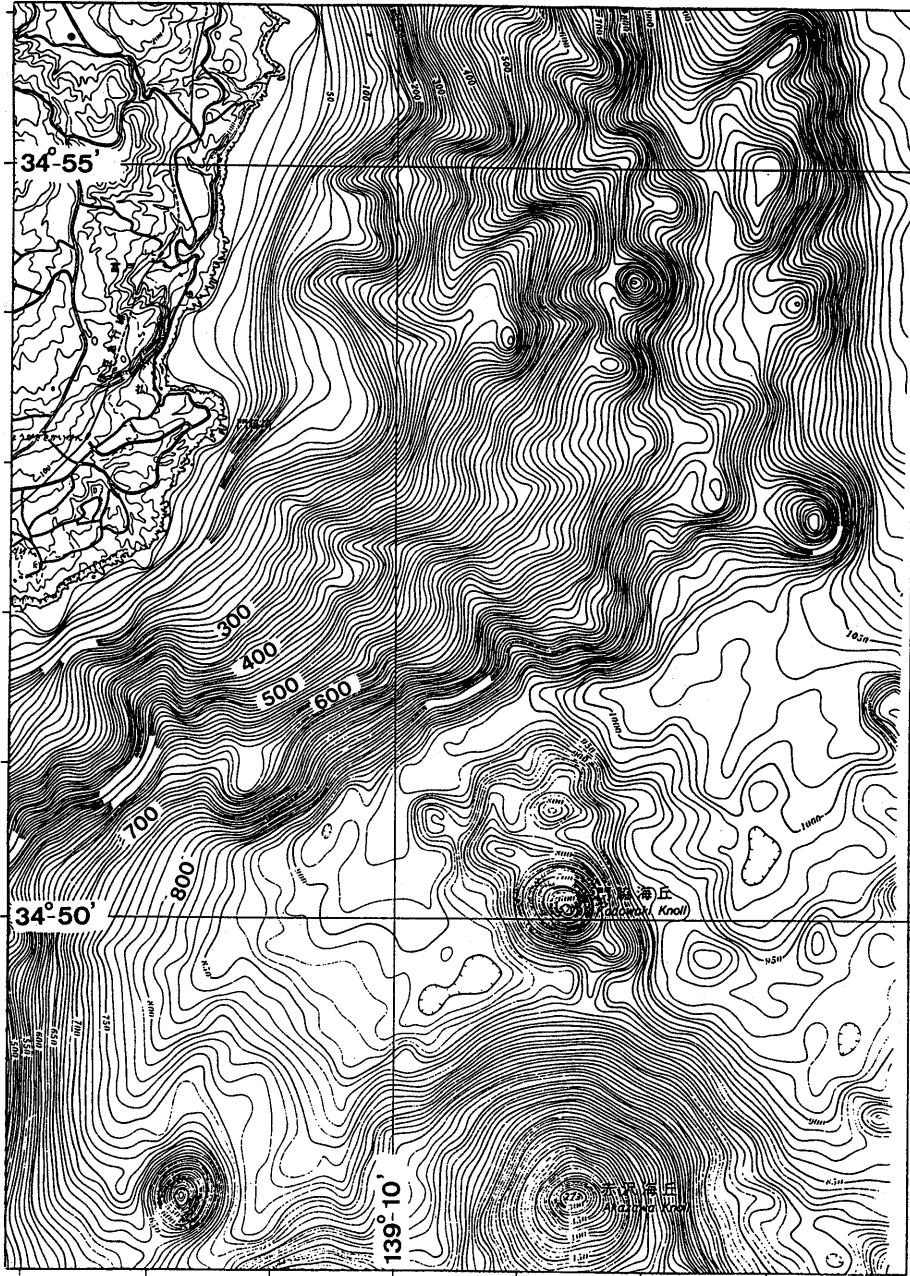


Fig. 2 Topography off eastern Izu Peninsula surveyed in 1988.
Contour interval of 10m.